

低コスト人工飼料の開発

全齢人工飼料育を利用した養蚕の大規模化・工業化が期待される一方で、既存の市販人工飼料はコストが高く、企業の参入が進んでいません。そこで、人工飼料の組成を見直し、原材料費を従来の37%に削減した低コスト全齢人工飼料の開発に成功しました。



低コスト全齢人工飼料を食べる蚕

低コスト全齢人工飼料の特徴

- ①飼料の原材料費は**従来の37%**になりました（図）。
（1万頭飼育時の低コスト飼料原材料 22,036円）
- ②**低コスト飼料は1～2齢用、3齢用、4～5齢用の3種類に分かれています。**
- ③低コスト人工飼料は**実用蚕品種「ぐんま200」「錦秋鐘和」の飼育が可能**であり、**広食性蚕品種**を用いる必要はありません。
- ④低コスト人工飼料で生産した**繭の成績は「くわのはな」と同程度（表）**です。

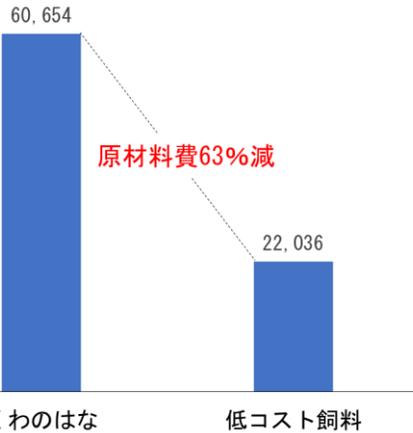


図 1万頭飼育時の原材料費

表 繭成績（1区 3,000頭での飼育試験）

試験区	繭の計量形質			上繭粒数 (粒)	上繭重量 (kg)	上繭歩合 (%)	1万頭 上繭収量 (kg)
	繭重 (g)	繭層重 (g)	繭層歩合 (%)				
くわのはな	1.67	0.350	21.0	2,500	4.16	83.3	13.8
低コスト飼料	1.77	0.327	18.5	2,601	4.70	87.4	15.7

利用上の留意点

- ①齢期ごとに飼料の種類が決まっているので、適した飼料を使用して下さい。
飼料への食いつきが悪くなり、収量が下がる原因になります。
- ②低コスト飼料で生産した繭は解じょ率など繰糸成績が悪くなるので、**糸繭としての利用に適していません。**
遺伝子組換えカイコによる有用物質生産や繭層の化粧品利用などに活用して下さい。